

## 自分らしく生きていく

### 小さい頃

私は小さい頃から、悪く言ってしまうえば楽をして生きてきた。一人っ子で争いなく、すくすく育ち、のんびりマイペースに生きてきた。両親の仕事の都合から、私は年長さんにして受験勉強をさせられた。ピアノや書道教室やボーイスカウトなど、親は共働きで相手ができないため、私は毎日のように習い事をさせられていた。きつとあのときが人生で一番勉強も習い事も頑張った時期だと思う。

私は無事小学校に入学し、毎日一人で地下鉄に乗り通っていた。勉強がすぐできるわけでもなく、できないわけでもなかった。高学年の頃からは常に成績が下のほうだった。中学に上がれないかもと言われるくらい頭が悪かったのか勉強しなかったのかは覚えていない。たぶん勉強しなかったのだろう。

### 勉強ができなかった中学時代

中学生になつてからも勉強の面では、上手いかなかった。中学受験をした子たちは私よりはるかに頭が良く、私はまた下の方の順位だった。両親からは、なぜそんなに頭が悪いのかと問い詰められ、ひどく叱られてばかりだった。思春期と頭が悪かった

のが原因で、母との喧嘩はいつも耐えなくてよく、テレビのリモコンを投げ合つて壊した。あの頃は父が出張で家にいないことが多い、二人で母と毎日喧嘩をしていたし、なぜこんなにも叱られなくちゃいけないのか疑問になりながらも泣いていた。

本当に悔しくて、「なんで勉強しても良い点数が取れないの！」と父に泣きながら訴えたとき、「誰かがドベを取らなきゃいけないから。もつと気楽に考えなさい」と父に言われ、救われた気がした。ただの慰めかもしれない。もう諦められていたのかもしれない。しかし、そのときの私には救われたと思つたし、肩の荷が落ちてすつと楽になった。

それ以来なぜかわからないけど、中学3年生あたりからぐんぐん成績が上がつていった。両親が喜んでくれることがプレッシャーになるため、あまり喜ばないようにお願いしていた。褒められると伸びるタイプではなく、褒められないで伸びるタイプだったのかもしれない。

### 軽い気持ちで大学進学

高校生になり、塾を変えたことで成績は常の中の上にいることができた。そして、ある一人の英語の塾講師に出会ったことがきっかけで、「英語が話せるようになりたい！ 留学したい」と考えるようになった。部活や学校行事や友人と遊ぶことで忙しく、あつというまに三年生が終わりに近づいていた。ほとんどの子がそのまま大学に進み、ひと握りの子たちが受験を決意していた。私は、「みんながそのまま大学行くなら、あたしも行くこうっ

と！、軽い気持ちで大学に来た。学部を選ぶときも、なんとなく、留学できそうかなって感じで選んでいた。

大学一年生になり、ただ飲んで遊んでバイトして過ごしていた。目的もなくただ学校に来て、寝て、友人と話して帰って寝る生活。思い描いていた大学生活とはまったく違っていた。自分自身、何か変えなきゃと思っていたが、何をすべきかわからなかった。

大学一年の終わり頃、小学校からの友人に会った。彼女は小学生の頃にお父さんを亡くしていて、いつか自分は医者になると宣言していた。一年浪人をして、見事東京にある大学に合格した。東京に上京する前に久々にあった彼女の顔つきは、最後に見たときよりしつかりしていて、キラキラしていた。やっと本当にやりたいこと、学びたいことができる。と嬉しそうだった。自分は何をやっているのだろうと考えさせられた。

彼女の話聞き、自分が情けなくなつたし、「なにかやらなくちゃ！」その一心だった。そこで私は、念願だった留学を決意した。私は女子校生活歴、約14年だが、みんなで群れて行動するのはあまり好きではなかつたし、自分がやりたいように留学したいと思い、学校主催の中期留学(半年)では行かなかつた。ずっと中学から同じ友だちとつるんで狭い世界しか見てこなかつたから、一人でどこかへ行き、もっと違った世界をみたいと思つていた。

## カナダへの留学

2年の夏、私は一人でカナダへ飛び立った。日本人の少ない学校に通つたことで、友人を世界中に作つたし、友人にも恵まれ、5か月くらいはルームシェアをしたことで、母のありがたみを実感した。日本でだらだらと大学生活を過ごし、小学校から同じ仲間と遊んでいた私には、とてもいい経験をした8か月だった。今までの生活では出会つたことのないような価値観の人に出会い、いろんなことで一喜一憂する日々だった。頭が悪い私が、異国の地で学んだ英語を使って生活し、現地の人と会話ができていくということに感動した。

特に苦労したことはなく、自分には向こうの生活の方があつていたと思う。帰ってきて友人には何も変わってないと言われるし、両親には少し自立したかな？くらいにしか言われなかつた。しかし、自分の中では何か変わったのかな、と思う。以前はみんなと群れてばかりで、ツンケンしていたけど、帰ってきて社交的になつた。悪く聞こえるが、外面が良くなつたと思う。一人で海外旅行も行けるくらいアクティブになつたし、いろんなことに積極的になつた。考え方が大雑把になつたことで、性格的にカドが取れて帰ってきたと思う。

## 就活が始まる

3年生になり、帰国して両親にお金を少しでも返そうと、アルバイトを必死にした。11月頃になり周りは就職活動モードになり始めた。私も、みんなが就職フェアに行くと言ったら、ただついて行っていた。春休みになり、中学からの仲の良い友人は

就活していなかったため、なかなか自分が就活生としての実感がわかなかつた。その年の3月の休みには1週間友人と旅行に行っていたくらい、就職活動に対して焦りがなかった。

両親も、私が就活フェアなどに行っているのをみて、たまに、「就活はどう？」と声をかけてくれた。どういう業界に行きたいのか、などは聞いてこなかった。だから私は、説明会に行つて興味を持った会社の話や、選考状況などを話して、時には企業の博物館や、テーマパークみたいところに企業研究のために訪れたりもした。両親の親(私の祖父、祖母)も自営で、両親も自営業のため、就職活動をしたことない。そのため、両親はあまり私には、「いいところに就職しなさい」など強制しなかった。私にあつた会社に就職できるというね。といつも言つてくれていた。私自身、「就活したことないんだからあまり口をださないで」と言つていた。

### 働く意味って何

4月になると、ぼつりぼつり内定者が出てきて、そろそろやらないといけないと気づいた。大学の友人に自己分析の仕方や、エントリーシートの書き方、企業研究を教えてもらった。エントリーシートの時点で落とされるが多かつた。就職活動を本気でやり始めたのに、エントリーシートの時点で落とされるため、本当に嫌になつたこともあつた。日本の就職活動の制度に本気で苛立つた。「働くってなんだろう」と友達に泣いて相談したこともあつた。

21歳になり、自分の本当にやってみたいことはなんなのか、改めて考えさせられている。私は友人からよく、「総合職でバリバリ働いてそう」と言われる。前はそうなりたいと思つていた。でも就職活動をする中でそんな生活はしたくないと気づいた。もちろん、将来結婚できるかわからないけど、結婚して子供ができたなら、子供が大きくなるまでは専業主婦でいたいと思つている。両親が共働きだったことが理由から、そう考えているのだと思う。だから就活するときは事務職しか見ていなかった。これといつて業種を絞らず、気になつた企業を受けていた。選考していくうちに、自分がやつてみたいなと思うような企業に、いくつか出合った。初めの頃は大手ばかりみていたため、惨敗だった。

### 遅れて始めた就活

そこで人材を大切にしてくれている企業を中心に活動し始めた。4、5、6月は自分との戦いだった。就職活動をゆつくり始めた自分のせいで、つらい3か月だった。一緒に頑張ろうねとキャリア・サポート課に通つていた友人は、何人か内定が決まつていった。彼女たちに比べたら、確かに私は頑張つていなかったかもしれない。私はあまり人を妬んだりしない性格だったが、心のどこかで、「なんであの子は通るのに私はダメだったんだろう」とか考へていたときがあつた。

いまだに企業の人材の選び方はよくわからない。内定をもらい、就活を終えた友人とは疎遠がちになり、中学からの就活をしていない友人に対しては、「大学まで親に行かせてもらつてる

のになんで就活して働かないの？」とか、「結局コネで入るとはせいじやん」と考えていた。間に挟まれて葛藤していた。まだ就活中で内定が決まっていない友人は味方のようだけど、内定が決まった友人は敵のような気分が辛かった。遊んだときでも、就活を終えた友人は聞きづらいのか就活の話は全くしてこなかった。もちろん私もしなかった。中学からの友人とは、就活の話は出たとしても、「どーにかなるでしょ」という感じだった。

### 支えてくれた人たち

そのため私はあえて高校から仲が良いが、最近会えていなかった友人Tに相談した。彼女は内定をもらっており、昔から頭もよく、大学は別のところに通っていた。なぜかわからないが、彼女にはなんでも相談できた。家もわりかし近かったことから、ほぼ毎週会って相談していた。

あとは留学中に出会ってからお兄ちゃんのようにしたっている先輩R。1年先輩のため、就活についてのアドバイスは9月くらいからされていた。SPIやれ、自己分析しろ、と口うるさく言われていたのに、聞き流していた自分が今では悔しい。就職活動のことで相談に乗ってもらっていても、悔しくなると喧嘩をしかけることもあった。それでも先輩は親身にアドバイスをしてくれていた。

あとはキャリア・サポート課の方。ただ話に行き、暇を潰していたときもあったし、私が悩んで泣いていたときもいつも話を聞いてくれていた。キャリア・サポート課に行かない方がいいという

人もいたが、行き場のない私にとっては、毎日通うことでやる気が起きたし、癒された。

この3人のおかげか、エントリーシートが6月ごろから通るようになり、面接が始まった。面接の前はいつも早起きし、朝ごはんをしつかり食べ、ずーっと笑顔でいることを心がけた。電車の中も大好きな曲と聞いて、「自信を持って、自信を持って」と唱えていた。面接では楽しめることが多く、緊張もしなかったため、毎回自信はあった。最終などで落とされてしまったときは、就活ノートに自分で反省点を書き、次に生かしていた。

### 内定を受け取って

最終的に7月のはじめの時点で2社内定を頂いた。ひとつは教育系の総合職、もうひとつは名古屋に本社のある商社の事務職。どちらに入社するか本気で迷った。たまたま商社の事務職の内定者懇談会に参加したときに、同期はとも明るく、イベント好きで自分と気の合う人が多く、仲良くなることができた。また、先輩社員の話聞いて、自分が入社してからの姿を思い浮かべることができたし、ここで本当に働きたいと思ったし、自分が就活において人材を大切にしてくれる会社はここだ！と思い、私は事務職の会社に入社することを決めた。

両親に伝えたときは、「名古屋では名前のある会社だし、自分の人生だから自分でいくと決めたなら頑張りなさい」と言ってくれた。助けてくれた友人は自分のことのように喜んでくれた。まだ内定をもらってなかった友人には、あまり公言していな

い。相手が決まったときに喜びを分かち合えればと思う。

私は就職活動を通して、多くの人から力をもらい、多くの企業や多くの人に出会い、たくさんの体験をした。両親と絆が強くなった反面、友情関係に溝ができたときもあった。関係は前と同じだが、自分の中で友人の考え方が前より変わったと思う。なにが変わったかはわからない。しかし、なにか違った気がする。

なにより、親の存在がありがたく、支えてくれた友人や先輩があつたからこそ内定を頂けたし、素晴らしい同期に出会えることができた。

いままで苦勞せずエスカレーターで上がってきて、受験の厳しさなど体験していなかった私にとつて、就職活動は辛いことが多かった。もつと勉強して、いい高校や大学に行けばよかったと後悔したときもあったが、振り返ってみると今の自分に満足している。今までの自分がいたからこそ、今の自分がいる。その今の自分以後悔はない。もちろん気ままずくなってしまった関係もあったが、今では元に戻つたし、今思えば、そういう存在がいたからこそがんばれたんじゃないかと思う。

就職活動を通して強くなった自分。わたしを支えてくれた人全てに本当に感謝している。4月からは社会にでて不安も期待もあるけど、周りに助けられて、自分自身もつと強くなって成長していけたらいいと思う。これからは人に流されずに自分らしく生きたいと思う。